

破裂内頸動脈前壁 blister-like aneurysm に対して stent3 枚を要し治療した 1 例

富尾 亮介¹⁾ 赤路 和則¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

[緒言]破裂内頸動脈前壁 blister like aneurysm は瘤壁が脆く治療困難で知られている。High-flow bypass 併用での trapping や、wrapped-clipping などの開頭による治療の他に、複数の stent を用いた脳血管内治療例も報告されている。今回 stent3 枚を要しながらも脳血管内治療で良好に治療しえた 1 例を報告する。

[症例]63 歳男性、頭痛嘔気にて発症。発症 4 日目に近医にてクモ膜下出血の診断で当院へ搬送された。左内頸動脈前壁に壁の突出と不整を認め、5 日目に行った脳血管撮影で内頸動脈前壁 blister like aneurysm の破裂と診断した。脳血管攣縮期と考えられたため、脳血管内治療を行った。抗血小板薬 loading 下に、Echelon10 から動脈瘤内に塞栓用 coil を 2loop 程度巻いた状態で Enterprise2 を展開し neck bridge stenting。瘤内に 2 本目の coil を追加塞栓したが、瘤内の造影残存を認めたため、新たに Lvis Jr. を overlap して展開した。展開後、瘤内への血流残存を認めたため、3 本目として更に Lvis Jr. を追加した。3 本目の Lvis. Jr の遠位端の展開が悪く、一時左内頸動脈 slow flow を認めたが、抗血小板薬の追加と PTA balloon によって stent 遠位端の拡張を行うと血流回復した。術後新規脳梗塞を認めず、経過良好。発症 19 日目の脳血管撮影にて動脈瘤造影消失、stent 留置部内頸動脈の血流良好を確認した。

[結語]破裂内頸動脈前壁 blister like aneurysm に対し、塞栓用 coil に加え脳血管 stent3 枚を要し良好な治療経過を得た。